

筑後国府通信

ちくごこくふつうしん

2011
VOL. 8

◆**せうご**◆

◆**古代の道路**◆

古代、筑後地方が筑後国であった頃、

筑後国を統括した役所は「筑後国府」と呼ばれています。筑後国府は、今から千三百年ほど前の七世紀末頃から約五百年間、久留米市合川町・朝妻・御井町一带に広がっていました。この貴重な文化遺産である筑後国府について、最新の情報を提供する『筑後国府通信』の第八号をお届けします。今回は、筑後国府跡の中に整備されていた古代の道路の話、そして平成二十二年度に実施した発掘調査の成果をご紹介します。

現代のまちづくりには道路整備は重要

課題ですが、それは古代においても同じです。国府は行政機関という性格上、庁舎など建物のイメージが強いようですが、各庁舎や役人の住まいなどを結ぶ道路網が整備されていました。今回は、筑後国府跡で行われた調査成果の中から、古代の道路跡にスポットをあてたいと思います。

前身 官衙期	合川町枝光台地一帯 7世紀中頃～末
第1期	合川町古宮地区 7世紀末～8世紀中頃
第2期	合川町阿弥陀地区 8世紀中頃～10世紀前半
第3期	朝妻町三丁野地区 10世紀前半～11世紀後半
第4期	御井町横道地区 11世紀後半～12世紀後半



▲現代の道路と重複して発見された古代の道路跡(中央アミかけ部分)。ほぼ直線的に造られていることが分かりました(朝妻町。東上空から)

◆国府のメインストリート◆

筑後国府内には、政庁と呼ばれる政治・儀式の中心地があり、その周りには色々な役割を担当した官庁が広がっていました。これらの役所は、それぞれバラバラに造られたのではなく、多くは、筑後国府のほぼ中心付近に通されたメインストリート沿いで発見されています。このメインストリートは、東合川町のへボノ木公園付近から、まっすぐ西方向へ造られていて、合川校区コミュニティセンター付近までは、現在も使われている道路とほぼ一致しています。幅は約六〜十二メートルとバラつきがありますが、地形や周囲に広がる施設と関係があるものと思われま



▲現在の道路に沿って発見された古代の道路（西から）

これまでの発掘調査では、合川・東合川・朝妻町でたくさんの道路跡が発見されています。これらの道路跡は、国府内の諸施設や重要地点を結ぶために造られていたと考えられ、井葉地区では湧き水へ向かう道路跡が見つかっています。他にも屋敷跡に沿って見つかった道路跡や、まち割りを示すような道路跡、直線的な道路跡や蛇行した道路跡など、様々な道路跡が発見されています。道路は人が通るだけではなく、物や情報も行き交います。古代の道路跡の調査と研究をすることは、筑後国府の情景を考える道しるべにもなるのです。

◆国府内の道路網◆

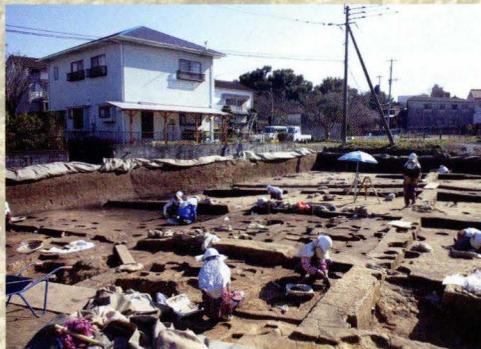


▲井葉地区で見つかった湧き水へ向かう道路（北東から）

平成22年度 発掘調査速報

平成22年度は、合川町と朝妻町の3地点で発掘調査を実施し、新たな知見を得ることができました。その中で、平成22年10月～平成23年3月にかけては、筑後国府跡が最盛期を迎える時代に行われた古代の土木工事に関する調査を行いましたので、その調査事例を紹介したいと思います。

合川町三反野で実施した調査地付近には、湧き水によって谷が形成され、現在も水路には豊富に水が流れています。発掘調査では、水はけが悪い低地に、粘土を積んで造成した土木工事の跡が発見されました。粘土の基底部には、地盤を突き固めて強化させた痕跡や、砂や礫などで積土の崩壊を防止しようと試みた痕跡が発見されました。このような大規模な土木工事の発見は非常に珍しく、古代の土木工事技術に関わる貴重な調査成果を得ることができました。



▲発掘調査の様子（北西から）



▲土器が出土した様子（西から）

『筑後国府通信』第八号

平成二十三年三月三十一日
発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市文化観光部 文化財保護課

〒八三〇一八五二〇 久留米市城南町一五番地三

TEL 〇九四二一三〇一九二三五 FAX 〇九四二一三〇一九七一八